

健康のひろば

院内報

2008. 12 月号

ホームページ <http://www.kakegawa-hsp.jp/>

愛365日 掛川市立総合病院



C・O・N・T・E・N・T・S

- 2 整形外科について
- 3 病院の概要
人事異動
編集後記
- 4 ナースキャップ

スマイルくらみによる 氷枕カバーと造花の 寄贈“ありがとう”

ボランティア団体スマイルくらみが、たくさんの氷枕カバーと造花を寄贈してくれました。“患者さんに喜んで使ってもらいたい”とコメントをくれました。写真は寄贈していただいた造花を受付等に飾らせていただいたものです。

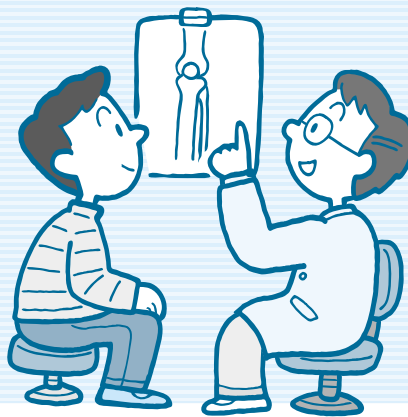
● 助産師・看護師募集中! 詳しくは、経営企画課 総務係 ☎0537-22-6211 まで ●

整形外科に

ついて



須川 敬(左立)、伊藤孝紀(筆者・中央立)吉村伸二(左座)
金子正利(左座2)、八木秀樹(左座3)、中村 滋(左座4)



診療科の特徴

整形外科では、骨・関節に関する病気(疾患)・ケガを中心に診療を行っています。具体的には、椎間板ヘルニアや脊髄症・脊柱管狭窄症などに代表される脊椎疾患、変形性関節症などの関節疾患、事故やスポーツによる骨折などを診

療対象としています。

当科では、当地区の患者さんに

絶対的の信頼を得ている脊椎外科医・中村医師(副院長)と、新進気鋭の若手整形外科医5名の計6名で診療に当たっています。評判を聞きつけて、掛川地区のみならず



ず袋井・菊川などの近隣地区や、愛知・岐阜・静岡東部などの遠方からも当院での治療を希望し来院

される方もあり、毎年1,000件以上の手術を行っています。

脊椎疾患について



当科で最も多く治療を行っている疾患です。中村医師を中心に6人全員で治療に当たっています。高齢者が多い当地区では、特に頸髄症や、腰部脊柱管狭窄症などが多くみられます。

年齢とともに脊髄神経の通り道である脊柱管が狭窄して神経が圧迫されることで、頸椎では頸髄症と呼ばれる状態となり、手のしびれ・巧緻運動障害(字を書いたり箸を使ったりなどの細かい運動ができなくなる)などの症状をきたし、腰椎では腰部脊柱管狭窄

症を生じて、安静時の坐骨神経痛・歩行時の下肢痛・下肢筋力低下を生じます。これらの治療としては、痛み止め・神経への血行を改善する薬の内服やブロック注射が有効な場合がありますが、それでも症状が続く日常生活に不自由が生じる場合は、脊髄神経の通り道(脊柱管)を拡大して圧迫を取り除く手術が有効です。手術によってそれ以上の症状の悪化を防ぐとともに、痛みや運動障害・筋力低下などの改善が得られます。

関節疾患について



年齢とともに関節の軟骨は擦り減っていきます。ちょうど自動車のタイヤが、走行とともに擦り減っていくのを想像していただくのと分かりやすいでしょう。軟骨の

摩耗に伴い、関節に変形が生じることを変形性関節症と呼びますが、これが膝関節や股関節に生じれば、階段昇降や歩行に大きな支障をきたします。脊椎疾患同様、

高齢者が多い当地区では、変形性関節症も非常に多く見られます。初期には、変形性関節症に対して筋力強化などのリハビリテーション・痛み止めの内服・関節内へのヒアルロン酸注射などの保存治療を行います。効果が無い患者さんに対しては変形の程度に応じて手術を行っています。例えば、変形性膝関節症において軽度の変形の場合は、関節鏡視下に悪くなった軟骨や半月板を掃除するクリーニング手術を、変形がかなり進んでしまっている場合には、人工関

その他について

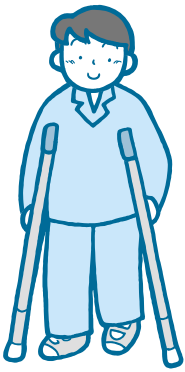
最近では、肩関節の腱板断裂や膝関節の半月板損傷・前十字靭帯断裂に対して侵襲の少ない鏡視下手術（鏡視下腱板縫合術や鏡視下靭帯再建術など）の件数が増えています。鏡視下手術とは、径5mm程度の関節鏡とモニターを使用し、行う手術のことで、その利点として傷口が小さいため術後疼痛が少なく、社会復帰が早いことなどが挙げられます。

以上の疾患以外にも、事故・ス

節置換術を行っています。変形性関節症の増加に伴って、人工関節置換術の手術件数は年々増加していますが、痛みがよくなったと喜ばれる患者さんが多く、良好な結果を得ています。



ポーツによる骨折・靭帯断裂などのケガについては、ギプス治療や必要に応じて接合術・靭帯縫合術などの手術治療を行っています。これらのケガ・疾患を含め骨・関節疾患でお困りのことがあれば外来でご相談ください。



病院の概況

(10月)

患者数	区分		人数 [名]		前月対比 [名]	
	外	来	延べ	1日平均	延べ	1日平均
患者数	外	来	延べ	20,148	延べ	1,476
			1日平均	916		-20
入院	入	院	延べ	11,329	延べ	344
			1日平均	365		-1
赤ちゃん誕生	男の子			18		7
	女の子			17		4
	計			35		11
人間ドック受診	1泊2日コース			6		0
	日帰りコース		延べ	733	延べ	63
			1日平均	35		1
	脳ドック			3		-3
	計			742		60



■おねがいします

採用職員

◆非常勤医療補助 (10/16付)
中嶋友子 病棟5階西

■ありがとうございました

退職職員

◆非常勤医療補助 (10/15付)
野本明美 病棟5階西
◆看護師 (10/31付)
松村静佳 病棟3階

編集後記

先日、ヘルパー研修でゴミの分別について説明をさせていただきました。ヘルパーさんは、みんな熱心な方ばかりでこちらが圧倒されそうでした。愛365日の精神で患者さんと接したり、みんなの為に業務をしてくれているんだなと、気持ち伝わってききました。最近、職員全員の努力でゴミ削減が出来てきています。ゴミが少なくなれば、それだけCO2排出量も削減できます。これからも、地球に愛365日の精神で業務に励もうと思っております。

看護部
だより

ナースキャッツ

No.19

3階病棟は

片付け上手



3階病棟 主任看護師
西尾 一枝

今年度、3階病棟では『5S活動に取り組み』を、病棟目標にあげて、活動してきました。「5S」の意味は、整理、整頓、清潔、清掃、躰の5項目です。言葉の意味から学ぶ状況でしたが、昨年、病棟合併を行なった際、東西の物品の場所が分からなかった事からも、整理整頓は、日常的に必要な事だと感じていました。スタッフ一人一人が関わるように、片付ける場所毎に担当者を決めました。「片付け隊」と名付けたチームは、物の整理整頓を行い、物の表示を明確にするため、テープを貼って、定位置を定めました。途中から、スタッフの意識が変わり、自ら整理に目覚め、新たな取り組みがされていきました。紹介された感染防御を意識した、ワゴンの物品配置も、スタッフの工夫が凝らされています。(写真①)

ゴミの分別に関しても、定位置を決めたことで、捨てるべき場所に捨てる意識ができています。(写真②) まだ、5S活動としての徹底さは、不足していますが、みんなが意欲的に取り組んでくれ、波及効果もみられた事は良い成果だと思っています。



写真②



写真①

看護研究学会に 行ってきました

5階東病棟 看護師 田辺雪乃

昨年度、看護研究のテーマを『癌患者とその家族を、一つの単位として捉え、援助方法を考える』として、事例検討を行いました。患者、家族を含めた面談を行い、それぞれの想いを聴いて、看護を展開しました。今回、東海北陸地区看護研究学会で発表してきました。

発表後の質疑応答で、客観的な意見ももらい、自分たちの看護研究の未熟さを感じました。他の研究発表

を聞くことで、日々の看護を見つめ直すよい機会となりました。また、川嶋みどり先生の『相手と共に生きる看護』という講演は、自分たちの看護研究と合い通じるものがあり、共感しました。



右が発表者 田辺雪乃さん

輝きナース

パート 4

「バトミントンでリフレッシュ」

看護師 佐野雅人

バトミントンは、病院に就職してから始めました。仕事が忙しく、行けない日もありますが、月に2〜3回行っています。

バトミントン部はドクターや放射線技師などたくさんの方々が集まり、皆でワイワイ汗を流しています。

体力UPやストレス解消の他に、クラブを通じて知り合いが増え、仕事をする中でも声が掛けやすくなりました。私生活でも、スノーボード、他のスポーツを一緒にやり、充実した日々を過ごしています。



右が佐野雅人さん